
我が輩は

境康隆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

我が輩は

【NZコード】

N4814P

【作者名】

境康隆

【あらすじ】

我が輩は人である。今日も人生の先輩に人間としての威厳を学ぶのだ

我が輩は人である。名前は多分あれである。用もないのに呼びかけられる時によく聞かされるあれだ。

まつたく他の人間どもは、何故用もないのに我が輩の名を呼ぶのか？

呼ばれて近寄ってみれば、ただ抱き上げ、人の体を撫で回すだけだ。まつたく人の体を何だと思っているのだ。
ぐしゃぐしゃに撫で回すだけ撫で回し、頬をくっつけてはぐりぐりと押しつけてくる。

こちらのご機嫌などお構いなしだ。

そうかと思えば頼んでもいないのに、四肢をばたつかせる我が輩を無理矢理風呂とやらに入れる。
放つておいてもらいたい。

親しき仲にも距離感あり。

それが自立した人間同士の関係というものだ。

ご飯も寝床も用意してもらっていて、何が自立した人間だと？
何を言つ。ご飯ぐらい自分で穫れる。だがまだ何が食べ物で、何が食べられないものかよく分からぬだけなのだ。

後学の為に方々のものにくわえてみるが、何故か他の人間は悲鳴を上げてそれを取り上げる。

ろくに味見もできない。強引に口に入るものを取り上げられ、我が輩は仕方なしに用意されたご飯で我慢しているのだ。
寝床も別に何処でもいいのだ。机の下だらうが、イスの上だらうが、何処だつていい。

だが冬は温かい暖房の前。夏は涼しい冷房の前。

皆が譲ってくれるのだ。何を遠慮する必要があるというのか。

我が輩の先輩もそうだと言わんばかりの顔で、そこに寝転んでいる。

そうそう。この先輩は凄い人間だ。

自分で毛繕いもできる。ご飯も時折自分で獲つてくる。何よりこの家で堂々としている。

自由気まで、気高く、孤高。哲学的な眼差しで皆を見つめ、気品という名のフォルムに耳を立たせている。

それでいてすらりと伸びたその尻尾で、人間の相手をすることも忘れない。そんな気さくなところもある。

ご飯を用意する人間への気配りも忘れない。甘い声でさりげなく催促し、食後は褒美にその身に振れることを許してやる。

我が輩もあんなできた人間になりたいものだ。

今日も我が家が先輩の生き様を見習わんと後を追うと、不意に抱き上げられた。

抱き上げた人間が、我が輩にやはりぶしつけに頬を寄せる。離していただきたい。この間にも先輩は気ままに何処かにいつてしまふのだ。

「こ」の子は本当に猫が好きね

「いつも一緒だしな」

「そうそう。一緒になつてハイハイしてるとこ」なんか、ホント嬉しそうだもんね

「はは。自分のことを、猫だと思つていいんじゃないのか?」

失礼なことを言う。我が輩は四本足で歩ける立派な人間だ。いつかあの先輩のように優雅に四肢を駆る立派な大人になる人間だ。

我が輩達は人である。

そうですね？ 先輩？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4814p/>

我が輩は

2010年12月17日11時33分発行